

Title	眞淵の古今集研究に關する一問題
Author(s)	宇佐美, 喜三八
Citation	語文. 1950, 1, p. 1-8
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/68360
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

Osaka University

前 号 論 文 補

正

字 佐 美

喜 Ξ

八

説を挙げたが、三宅氏は「荷田春満」の中で、 中でも、「野村氏の論拠によっては未だこれを眞淵の著作とも決し 体系」に所牧)において、「左注論」 は主として眞淵が書いたもので 満の著述目錄の中には入れてをられない。同氏はまた「賀茂眞淵の 在満の作と見ることは否定に傾いてをられるのであって、それを在 は右の通りである。ここに補正して三宅氏には謹んで御詫びする次 とれる。これは私の書き方が粗漏であったためで、三宅氏の御意見 の文の関係から、三宅氏が眞淵說を否定してをられるやうな意味に 難いとする說」として、三宅氏の「荷田春満」を註記したが、前後 あらうとしてをられる。なほ、 皇国学」(「国語文化」昭和十七年三月号、後、同氏著「国学の学的 前号の拙稿「眞淵の古今集研究に関する一問題」の中で、 「樟蔭文学」第二号に書いた拙稿の 「古今集左注論」を 三宅氏

第である。